

## おおやじ

ずいぶん前の話ですが、  
休校になる警報と休校にならない警報があったように思います。  
大雨警報が発令されている日に暴風警報が出ていないからと、  
学校に行かされた記憶があります。  
その時、風は危険で、雨は大丈夫なのかと不思議に思いつつ、  
「警報出てるのにー」って言いながら登校したような。  
警報による休校の判断は一律ではなく市町村ごとに決められているらしいですね。  
(中学生時代、インフルエンザで学年閉鎖になった時は喜びましたが、  
あとで補講があってガッカリしました。人生あまくないです。)



現在は気象観測技術進歩やスーパーコンピューターによる  
高度な予測が可能になり、  
インターネット、デジタル放送、スマホなどで  
情報伝達も極短時間で詳細になりました。  
以前の警報発令頻度は今ほど高くなかったと思いますが、  
近年は「特別警報」なども定められ、  
最近では確実に気象災害が**激化**していると感じます。



「おおやじ (大風)」のお話をしました。  
「大風＝台風」のこととして台風から見ていきたいと思います。  
どうぞ最後までお付き合い下さい。

台風の定義は、赤道より北側で東経 180 度より西側の北西太平洋、  
南シナ海に存在している「**熱帯低気圧**」で、  
低気圧域内の 10 分間の最大風速が「約 17m/s 以上」としています。  
(最大風速はどうやって計るのでしょうか?)



温帯低気圧が最大風速 17m/s 以上になっても台風と呼ばれないようです。



熱帯低気圧と温帯低気圧の違いは「前線の有無」で、  
熱帯低気圧は暖かい空気だけで作られています、  
温帯低気圧は北側からの冷たい空気と

南側からの暖かい空気がぶつかり合っていてできているため境目に  
「寒冷前線」と「温暖前線」ができます。

台風が「温帯低気圧」にも変わることがあります。  
温帯低気圧は広範囲に悪天候を及ぼす特徴があります。

最大風速が 17m/s 未満になった時には

台風ではなくなり進路予想が発表されなくなりますが、強い風が収まっても豪雨が続くこともあります。

台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸に達した時点で「日本に上陸」とし、沖縄諸島やその他の島では台風が通っても



「通過」と表現するように決まっているようです。

鹿児島県、高知県、和歌山県が台風の上陸回数上位です。

1951年から2021年の71年間で1856個発生(平均26.1個)、398個が接近(21%)、うち209個が上陸(53%)しました。



台風の早い発生は2019年1月1日、遅い発生は2000年12月30日、早い上陸は1959年4月25日、遅い上陸は1990年11月30日、

上陸時中心気圧が低いのは1961年9月16日第二室戸台風の925hPa、

(統計開始前には1934年9月21日室戸台風911.6hPa、1945年9月17日枕崎台風916.1hPa)

台風寿命は1986年8月18日から9月6日の19.25日が最長です。

(気象庁 <https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/>)

死者・行方不明者数では、

1959年9月26日の伊勢湾台風5098名、

(前出)枕崎台風3756名、

(前出)室戸台風3036名です。

台風だけでなく、**線状降水帯**の発生によっても大きな被害が出ています。

(説明のための注釈小文字が多くて申し訳ありません  端折って読んで頂いても良いかと思います。)

**平成26年8月豪雨** 2014年7月30日 - 8月26日

(広島土砂災害、福知山豪雨、丹波豪雨、2014高知豪雨)

日本列島への相次ぐ**台風**の接近や上陸と前線の停滞による大雨で同時多発的に土石流が発生。

**平成27年9月関東・東北豪雨** 2015年9月9日 - 9月11日

日本海の温帯低気圧に太平洋上から湿った暖かい空気が流れ込み秋雨前線を刺激、日本列島に接近していた**台風**が湿った風を吹き込み**線状降水帯**が発生し、茨城県で鬼怒川が決壊し土砂災害が発生。

**平成29年7月九州北部豪雨** 2017年7月5日 - 6日

**台風**と活発な梅雨前線による集中豪雨で山地部の中小河川が氾濫し土砂災害。

**平成30年7月西日本豪雨** 2018年6月28日 - 7月8日

停滞した梅雨前線に**台風**から大量の湿った空気が流れ込み広範囲で大雨を降らし、各地で河川氾濫や土砂災害が発生。

**令和2年7月豪雨** 2020年7月3日 - 7月31日

停滞している梅雨前線に大量の水蒸気が流入しやすい気象配置が続く複数の**線状降水帯**が発生。熊本県球磨川が氾濫し土砂災害が発生。

集中豪雨の時、線状の降水域が見られることは知られていましたが、

平成26年8月豪雨による広島市の土砂災害で、この言葉が注目されるようになりました。

気象庁は、令和4年(2021年)6月29日 沖縄本島北部に線状降水帯が発生したとして、  
「顕著な大雨に関する情報」を初めて発表しました。

(線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/kisho\\_joho\\_senjokousuitai.html#b](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/kisho_joho_senjokousuitai.html#b))

「おおやじ」から台風、線状降水帯まで見てきました。

こんなにも自然が荒ぶり災害を凶暴にってしまったのも  
また「人」なのでしょうね。

災害が多くなる季節、今回は拡大版でお送りしました。

では、またお目にかかります。 (あくまでも予定です) 